

JR東日本グループにおける節電の取組みについて

JR東日本グループでは、現在、東日本大震災発生以降の電力供給不足を踏まえ、駅・車内などでの節電に取り組んでいます。今後、電力需給が逼迫する夏期に向けて、「電力使用制限令」を踏まえ、より一層の取組みを実施していく予定です。

ご利用のお客さまにはご不便・ご迷惑をおかけいたしますが、当社の取組みの趣旨をご理解賜り、ご協力をいただきますようお願いいたします。

《電力使用制限令の制限緩和について》

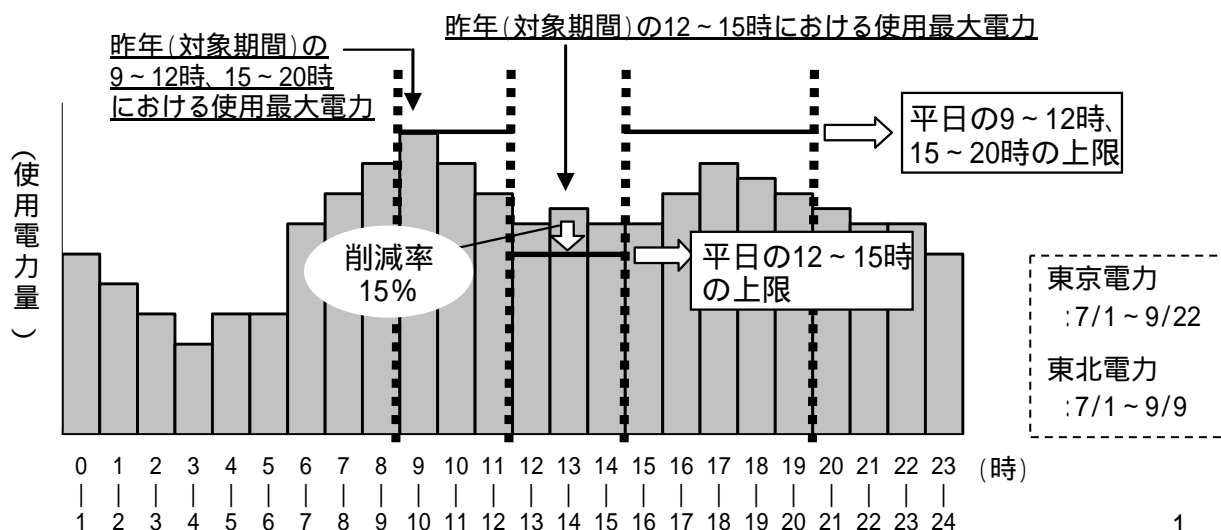
当社は、一律に電力使用のピークカットを求める「電力使用制限令」に関し、鉄道については、その社会的使命を考慮し、適用を除外するよう求めてまいりました。仮に適用される場合でも、被災地への配慮や通勤時間帯の除外、運行頻度の少ない線区の削減率の緩和など、特別な措置を講じていただくようお願いしてまいりました。

5月25日、経済産業省が「電力使用制限令」の内容を発表し、6月1日には関係する省令・告示が示されました。そのなかで、鉄道に関しては、時間帯や削減率において制限緩和が定められており、私どもの要望にご配慮いただいたものと考えております。

【表】鉄道に関する「電力使用制限令」に基づく使用最大電力の削減率（制限緩和・平日）

区分		12時～15時	9時～12時、15時～20時
A	被災地の路線	0%	
B	東北、長野、上越新幹線	0%	
C	1時間あたり3本以下(上下別)の路線	0%	
D	1時間あたり4、5本(上下別)の路線	5%	0%
E	1時間あたり6本以上(上下別)の路線	15%	0%

【図】「電力使用制限令」の適用イメージ（15%削減の場合）



《節電への取組み》

1. 日中時間帯に一部列車の運転本数を削減します

「電力使用制限令」に基づく使用最大電力の削減率を踏まえ、以下の基本的な考え方に基づき、節電ダイヤを策定します。ダイヤについては、確定し次第、お知らせいたします。

[基本的な考え方]

① 1時間あたりの運転本数が4本以上（上下別）の路線【区分D・E】

東海道本線、総武線快速、中央・総武線各駅停車、中央線、南武線 など

日中時間帯（平日12時～15時）について、使用最大電力の削減率の達成を図るため、運転本数を削減いたします。

列車運転以外にも駅や踏切、信号などで電力を使用しているほか、列車運用なども複雑に絡んでくるため、【表】の電力使用に関する削減率・時間帯が、列車の運転本数の減と一致するわけではありません。

被災地の路線、新幹線、1時間あたりの運転本数が3本以下（上下別）の路線【区分A・B・C】

被災地の路線：仙石線、磐越西線、常磐線（取手以北） など

新幹線：東北、長野、上越新幹線

1時間あたりの運転本数が3本以下（上下別）の路線：相模線、両毛線、八高線 など

基本的に運転本数の削減は行いません。

自営電力で運転している路線

山手線、京浜東北線、埼京線 など

○首都圏の一部の線区については、当社の保有する自営発電所（火力・水力）の電力で運転しております。

○こうした線区は、電力使用制限令の対象ではありませんが、今回の電力需給の逼迫は国家的な危機であるという認識のもと、一定程度の運転本数の削減を行うこととし、余剰電力を生み出すことで、東京電力㈱の電力供給に協力してまいります。

なお、①～③において、平日9時～12時、15時～20時については、基本的に昨年の使用最大電力を上回らないよう、ダイヤを策定します。

2. 駅・車内での節電に取り組みます

東日本大震災発生以降、お客さまのご理解を賜りながら、駅・車内において以下の節電策を実施しておりますが、夏期も引き続き実施してまいります。

[取り組み内容]

- ・ コンコース・ホームの蛍光灯の一部取り外し、日中時間帯の消灯・減灯
 - ・ みどりの窓口、びゅうプラザの冷房温度の引き上げ
 - ・ 案内サイン等の一部消灯
 - ・ 自動券売機の一部を使用停止
 - ・ 飲料自動販売機の内部照明の消灯、冷却時間の設定変更
 - ・ 駅構内店舗の消灯・減灯、冷房温度の引き上げ
 - ・ 車内の蛍光灯の一部取り外し、日中時間帯の消灯*
 - ・ 車内の冷房温度の引き上げ（全車を弱冷房車の温度に設定）*
- * 新幹線、特急列車等を除く。

エスカレーターについては、朝夕は基本的に稼働させるほか、日中時間帯についても、高低差やお客さまの混雑など諸状況を勘案したうえで、稼働させます。なお、エレベーター、音声誘導チャイム、多目的トイレについては、常時稼働しております。

3. オフィスの使用電力を節減します

当社の本社、支社および現業機関などオフィス部門においても、最大限の節電の取り組みを実施してまいります。

[取り組み内容]

- ・ クールビズ開始時期の早期化（5月1日より実施）
 - ・ 蛍光灯の一部取り外し
 - ・ LED照明の導入
 - ・ タスク&アンビエント照明*の試行導入
- *天井照明の照度を抑え、手元のLEDスタンド等で明るさを補う照明方式。
- ・ 冷房温度の引き上げ
 - ・ エレベーターの一部停止
 - ・ 節電効果が期待できる勤務スタイルの導入
- 早め出勤・早め退社、長期休暇の取得促進等（本社・一部支社）
 「土日」勤務、「木金」休みの実施（一部支社）



4. JR東日本グループをあげて節電に取り組みます

駅ビル、ホテルなどグループ会社においても、照明のLED化を推進するほか、業種・業態に応じた節電の取組みを実施してまいります。

- 〔駅ビル〕 共用通路・バックヤードの消灯・減灯、冷房温度の引き上げなど
- 〔ホテル〕 フロント・通路等の照明の消灯・減灯、客室冷蔵庫の一部稼動停止など
- 〔オフィスビル〕 共用部の照明の消灯・減灯、冷房温度の引き上げ、エレベーターの一部停止など
- 〔地域冷暖房〕 夜間電力でブラインターボ冷凍機*を稼動させ、昼間の電力使用を削減
*余力のある夜間電力で蓄熱槽に氷をつくり、電力需要の多い昼間に冷房に利用する機械。

5. お客さまにご理解・ご協力をいただく取組みを推進します

(1) 駅・車内での東京電力(株)の「電力使用状況」の表示 (4月下旬より実施済み)

駅構内の「J・ADビジョン」*、車内の「トレインチャンネル」において、東京電力(株)の「電力使用状況」を表示しています。

* J・ADビジョンについては、節電のため明るさを落としています。



(2) 節電キャンペーンの実施

①実施期間

2011年6月下旬から2011年9月末まで

②具体的な展開方法

- ・ポスターを当社の駅・車内に掲出
- ・当社ホームページに当社の節電への取組み状況を掲載
- ・駅や車内での放送で節電へのご協力を呼びかけ

※当社は、複数の契約を共同して使用最大電力の抑制に取り組む「共同使用制限スキーム」を申請し、節電ダイヤや駅での節電の取組みなど総体で、使用最大電力を削減する予定です。